

10月20日 能勢妙見山

平尾 繁和

山名	能勢妙見山 (660m)		山行名	例会		
ルート	妙見口駅～上杉尾根登山口～山頂～大堂越～ケーブル黒川駅～妙見口駅					
山行日	2020年10月20日(火)		天候	快晴		
参加者	CL:平尾 SL:廣瀬 女性10名、男性2名 1班:平尾、上田、川上、小林、玉置、河野、2班:廣瀬、大林、中井、牧ノ瀬、上杉、倉光 /12名					
ルート概略	コースタイム					
省略	地名		時:分	地名		
	妙見口駅	着	9:30	大堂越	着	13:02
		発	9:35		発	13:05
	上杉尾根登山口	着	9:55	ケーブル黒川駅	着	13:45
		発	10:00		発	13:55
	山頂三角点	着	11:26	妙見口駅	着	14:15
		発	12:10			
	妙見宮	着	12:15			
		発	12:20			
	<p>「低山 with 歴史散歩」の第6回目。車の手配ができなかったのが公共交通機関を主に、能勢電鉄妙見口駅9:30の現地集合とした。10月新入会の2人が初参加。駅近くの空スペースでコース説明、自己紹介をし、SLの指導で体操をして出発。快晴で絶好のハイキング日和、上杉尾根登山口で衣服調整。たくさんのホオノキの枯葉にクリやクヌギのドングリが落ちていて晩秋の気配を感じる山路。希少植物のシロミノヤブムラサキが柵で保護されていた。ゆるやかな尾根を上り下りし、山上の広い駐車場の端に出る。妙見宮の鳥居の手前でトイレ休憩、鳥居の前で集合写真。山頂三角点まで登り、再度集合写真を撮ってからちょっと長目の昼食タイム。ブナが数本あり大木の間でそれぞれ食事をする。食事場所付近にツルリンドウの花と実を見つけたと報告があった。13時10分出発、八角形の星嶺前のテラスから南に大きく展望が開ける。右前方奥の大きな山塊は六甲山系なのだろうか?一度確かめてみなければと思った。日蓮宗寺院妙見山の山門が府県境で、兵庫県(川西市)から敷居をまたいで大阪府(能勢町)に入り境内に降りる。鳥居や狛犬がありおみくじを売っている境内から南に向かうと川西市に戻り保護されているブナ原生林の表示のあるブナ林に入る。氷河期に北方から南下したブナが残っているもので、この高さでは貴重で天然記念物に指定されている。台風で倒壊し横たわる大きなブナや、ツキヨタケかと思うキノコがびっしりついた倒木があった。ケーブル乗り場の前を通り下り、分岐を右へ山道に入る。大堂越で小休止。そこからヒノキ林を下り小さな谷筋の右岸を行く。一ヶ所、枯れ沢が石で寸断されていて山手へ上がったが、石の川筋を行った方がよいのかもしれない。シロダモ(クスノキ科)が赤い実をつけていた。まもなくケーブル黒川駅に到着。国道沿いを歩いて花折街道を妙見口駅に向かう。秋の里山(日本一の里山の看板もあり)の風情を燦燦とさす日を浴びながらススキやカキの実をながめ、稲の二番穂(糶)を食べに来たズメのさえずりをききのんびりと歩き、朝の空スペースで簡単に整理体操をして解散した。参考:ヤママップ記録 4時間48分、8.5km、上り568m/下り574m</p>					
ヒヤリハット	なし					



妙見宮入口鳥居の前で



山頂 三角点で



ブナの木の前で



山頂から見る境内、能勢の里山



八角形の星嶺



府県境の山門敷居をまたぐ



日蓮宗妙見山の境内



馬みくじと絵馬



ブナ林の中を



大堂越



炭焼き跡



台場クヌギ林



ケーブル 黒川駅

感想文

牧之瀬 久佳

○10月も半ば過ぎ、朝夕も冷え短い秋を惜しむころの能勢の妙見山の山行は、お天気にとっても恵まれました。登山口までの集落には柿の実も色づき青空の下の緑豊かな山々は来月の紅葉を期待させてくれるものでした。平日のせいもあり行き交う登山者も少なく、やや上り道後の尾根歩きは手入れの行き届いた杉木立を傍らに足元は踏みしめやすく歩き心地がとても良いものでした。十分な昼食休憩の後、下山はブナの木立を過ぎ、大堂越えからは沢伝いの道を歩きましたが、水の流れの気持ち良さとともに足元の土の湿りに注意が必要でした。参加者12名、交通機関を乗り継いでの山行きで、その折に隣り合う座席が変わり、今までお

話しする機会のない先輩の方ともお近づきになれたように思います。秋の一日を皆様のお陰で楽しく過ごさせて頂きまして有難うございました

中井 登代美

○先日はお世話になりありがとうございました。久しぶりの仲間との再会も嬉しく、楽しい一日でした。朝から青空とお山が私のためにあるんじゃないかと勘違いするほどでした。2月の雪山、綿向山以来の8ヶ月ぶりの登山。荷物の準備から戸惑いながら初心に戻って再スタートでした。不安な私でしたが、秋晴れの爽やかな青空とお山が待ってました。GO TO お山！！始めます～

<参考資料>

能勢妙見山

能勢頼次（1562～1626年）が開いた日蓮宗寺院で、山頂にある眞如寺の境外仏堂が「能勢の妙見さん」として知られ多くの参拝者がある。この地には、750年頃村人が行基に頼み山頂に北辰星（北極星）を祀ったのが始まりの北極星信仰があった。平安時代の986年、妙見信仰を持った源満仲がこの地へ鎮守霊符神像（妙見大菩薩像の別称）を遷座させたといわれ、その子が大江山の鬼退治で知られる源頼光で、孫にあたる頼国が能勢に移住し能勢氏を名乗ったのが能勢氏の始まり。22代の頼通は、織田信長に服従せず謀殺された。その子が頼次であり23代目を継ぐが明智光秀と親しく本能寺の変で明智方に味方し破れ備前に落ちのびていた。その後徳川の時代となり家康に召し抱えられ江戸幕府の旗本を務めた。

本瀧寺

妙見山の北の中腹にあり、上記の眞如寺とは別の妙見宗の総本山。（山号は能勢妙見山）天台宗系修験道から戦後独立し妙見宗となった。行基が開いた滝（能勢の本瀧）があり水行場になっている。

ブナ林

山上には、ブナ林がある。ブナは、寒冷な気候に育ち、一般的に標高1,000m以上の山地に生育している。標高600m前後の低所の妙見山上の生育は珍しく、能勢側のブナ林は大阪府の天然記念物に指定されている。2011年には川西側にもブナ林が発見され市の天然記念物として保護されている。氷河期に日本の北方から伝播したものが残っており、ここより北の剣尾山（784m）にはブナがないのに、なぜここにあるのか不思議だが、聖域として伐採が禁じられてきたため残ったものといわれている。

台場クヌギ

大堂越から黒川駅に向かう途中には、変わった形のクヌギ林がある。クヌギの萌芽性を活かし幹を再生・利用する方法で、元の幹は土台ようになっていて台場クヌギ林とよばれ林業遺産に登録されている。能勢は里山で知られるが、室町時代から始まった炭焼きが盛んで池田炭、一庫炭の名で知られていた。戦後の燃料革命で炭焼きは衰退したが、炭焼き跡が数ヶ所見受けられる。